



特集 IDE Library 50

途上国官報 — 収集の現状と課題

石井美千子

●タイ官報にみる時代の流れ

研究資料としての官報の重要性を最初に実感したのは、地方から来館された研究者がタイ官報を熱心に調べる姿に接した時だった。一八八四年創刊の現タイ官報は東南アジアで最も古い歴史をもつ官報である。アジア経済研究所図書館のタイ官報は国内でも所蔵年代が最も長く、重要かつ希少な資料としてしばしば目玉コレクションのひとつにあげてきた。

とはいえ当図書館でも一部欠落している年代があったため、完全なコレクションにするべくタイの図書館でマイクロフィルム化されていればそれを複製して入手できないか調べたことがある。しかし、タイの図書館では官報のマイクロ化はあまり進んでおらず断念せざるをえなかった。一方、所蔵する古い年代のタイ官報は紙質や製本状態が劣化し、破損が懸念されていた。研究者からの声や自分で見た限りでは、タイ本国での所蔵・保管状態も心許ないように思われた。そこで一九三〇年代までの官報をマイクロ化して閲覧に供することにした。

このようにタイ官報を如何にして完璧に揃え、長く利用できる資料として整備するかは長い間の懸案であった。

数年前、その懸案事項が一挙に解決された。タイ官報が創刊号からすべて電子化されオンラインで見られるようになったのである。大袈裟なようだが晴天の霹靂といってもいいほどの驚きであった。狭い見聞ではあるが、タイでは日本の研究者ほどには官報が重視されていないように見受けられたし、タイで資料保存といえれば主に貝葉(ヤシの葉) 文書を中心に行われているような印象があったためである。認識不足というほかないが、タイにおける電子化への波は想像以上に急速だった。

●各国官報事情—東南アジアを中心に

各国の官報の刊行形態は多様である。定期的に刊行している国もあれば、随時刊行している国もある。国によっては幾種かの部編に分けて刊行されている。また、マレーシアのように連邦制の国では国家官報のほか州政府の官報があり、すべてを収集す

るのはなかなか難しい。

官報の言語は基本的に現地語であるが、ベトナム官報「Cong Bao」のように英語版が発行されているものもある。また、マレーシア官報はマレー語と英語が併記されている。タイには英文官報(通称)があるが、これは民間会社が官報の法律改正部分を英訳して月刊で刊行しているものである。これにはタイ語原文も併載されており、法律改正を調べるには有用である。

官報の刊行状況の実態がつかみにくいのがインドネシアである。数年前のことだが、何人かの研究者に聞いた限り、一般に販売する形での官報は無いように推察された。そこで官報の代わりになるものとして、アジア図書館では、民間の出版社が発行する年刊の法律・法令集を毎年購入している。

ラオスの官報は一九九三年にスウェーデンの国家開発協力庁(SIDA)の協力により創刊された。アジア図書館でも創刊号から一年分ほど入手したが、その後、刊行状況が確認できなくなっていた。最近になつて二〇〇三年のSpecial Issueとして発行された予算書を手した。それには

